さくら国際高等学校 道徳教育計画

（モラル・エデュケーション・プラン）

１．基本理念

さくら国際高等学校の道徳教育は、「自己肯定感を高め、前向きに未来を切り拓こうとする力を育てる」という生徒育成方針に基づき、生徒一人ひとりの「個性」と「可能性」を尊重しながら、社会的自立と共生の力を育むことを目的としています。

道徳教育は、単なる知識の習得にとどまらず、心の成長、価値観の形成、人間関係の構築を支える教育活動として位置づけられます。生徒が自分自身を肯定し、他者と誠実に向き合いながら、社会の中で自分らしく生きていく力を育むために、学校全体で継続的かつ丁寧に取り組みます。

２．道徳教育の目標

道徳教育を通じて、以下のような資質・能力の育成を目指します。

育成する力	内容
自己肯定感	自分の価値を認め、自分らしく生きる力を育てる。 失敗や違いを受け入れ、前向きに歩む姿勢を養う。
他者理解と共感力	他者の立場に立って考え、違いを受け入れる姿勢を育む。 多様性を尊重し、共に生きる力を育てる。
協働と責任感	社会の一員としての責任を理解し、協働する力を養う。 集団の中で自分の役割を果たす意識を育てる。
倫理的判断力	善悪を見極め、自らの行動を振り返る力を育てる。 迷いや葛藤に向き合い、誠実な選択ができる力を養う。
自己表現と自己理解	自分の思いや考えを言葉や行動で表現し、自己理解を深める。 自分の「好き」や「得意」を肯定し、進路や生き方に活かす。

３．各教科における道徳教育計画

各教科の学びの中に、道徳的価値の育成を織り込み、教科ごとの特性を活かしながら、生徒の心に響く道徳教育を展開します。

国語	目標 ・言葉を通じて自己と他者を理解し、感情や価値観を表現する力を育てる。 道徳観の育成 ・文学作品を通じて、人間の葛藤や共感、倫理的選択を考察する。 ・自分の思いや経験を言葉にすることで、自己理解と自己肯定感を高める。 ・詩や随筆の創作を通じて、他者への思いやりや社会へのまなざしを育む。

社会	目標 ・社会の仕組みや歴史を学び、共生と責任の意識を育てる。 道徳観の育成 ・多様な文化や価値観の理解を通じて、包容力と共感力を養う。 ・公民分野では、権利と義務、倫理的判断について考える機会を設ける。 ・地域学習やフィールドワークを通じて、社会参加への意欲を育てる。
数学	目標 ・論理的思考を通じて、誠実さと粘り強さを育てる。 道徳観の育成 ・問題解決の過程で、協働や助け合いの姿勢を育む。 ・答えに至るまでの過程を大切にし、失敗から学ぶ姿勢を促す。 ・数学的な美しさや秩序を通じて、内省と探究心を育てる。
理科	目標 ・自然や生命への敬意を育て、倫理的な科学観を養う。 道徳観の育成 ・生命の尊厳や環境保護の視点から、科学と人間の関係を考える。 ・実験や観察を通じて、誠実さ・安全意識・協働の姿勢を育む。 ・科学技術の功罪について議論し、社会的責任を考える力を育てる。
保健体育	目標 ・心身の健康と他者との関わり方を学ぶ。 道徳観の育成 ・ルールやマナーを守ることの意味を理解し、責任感を育てる。 ・チームスポーツを通じて、協力・思いやり・フェアプレーの精神を養う。 ・心の健康や性教育を通じて、自分と他者を大切にする姿勢を育てる。
芸術 （美術・音楽）	目標 ・感性と創造力を通じて、自己肯定感と共感力を育てる。 道徳観の育成 ・自由な表現を通じて、自分らしさを肯定する力を育てる。 ・他者の作品を尊重し、違いを認め合う姿勢を養う。 ・音楽や美術の共同制作を通じて、協働と感情の共有を体験する。
英語	目標 ・異文化理解と国際的な視野を育てる。 道徳観の育成 ・英語圏の物語や人物を通じて、多様な価値観や生き方を学ぶ。 ・英語で自己紹介や意見表明を行い、自己表現力と自信を育てる。 ・異文化交流のシミュレーションを通じて、共感力と柔軟性を養う。
家庭科	目標 ・生活の中での思いやりと自立の力を育てる。 道徳観の育成

	・家族や地域との関係性を考え、支え合う心を育む。 ・食育や衣生活を通じて、命や資源への感謝の気持ちを育てる。 ・将来の生活設計を考える中で、責任感と自己決定力を養う。
情報	目標 ・情報社会における倫理観と自己管理力を育てる。 道徳観の育成 ・SNS やネットリテラシーに関する学習を通じて、他者への配慮と責任を考える。 ・著作権や個人情報の扱いについて、倫理的判断力を育てる。 ・情報発信の場面で、自己表現と他者理解のバランスを学ぶ。

総合的な探究の時間との連携 ・地域学習を通じて、社会との関わりや倫理的課題に向き合う機会を設けます。
特別活動（HR・学校行事）との連携 ・文化祭・体育祭・ボランティア活動などを通じて、協働・責任・思いやりを体験的に学びます。
選択講座との連携 ・動物・美術・地域活動などを通じて、自己表現と他者理解を促進します。

【個別支援・日常の関わり】

・カウンセリング・伴走支援

生徒の悩みや葛藤に寄り添い、自己肯定感の回復と倫理的判断力の育成を支援します。

・教職員のモデルとしての関わり

日常の言葉かけや態度を通じて、生徒が「尊重されている」と感じられる関係性を築きます。

・保護者・地域との連携

家庭や地域社会との協働により、道徳教育の価値を共有し、実生活に根ざした学びを支えます。

４．評価と振り返り

・自己評価・相互評価

授業や活動後に、自分の考えや行動を振り返る時間を必要に応じてとります。

（他者との違いを認識する機会を設ける）

・教職員による継続的な観察と支援

生徒の変化や成長を見守り、必要に応じて個別支援を行います。

５．道徳教育の位置づけと展望

本校の道徳教育は、学力・進路・生活支援と並ぶ教育の柱として位置づけられます。

生徒が「自分らしく生きる力」「他者と共に生きる力」を育み、卒業後の社会参加においても倫理的な判断と行動ができるよう、学校全体で継続的に取り組みます。「いつか咲く。思い通りにきっと咲く」という教育理念のもと、生徒の心に寄り添いながら、道徳教育を通じて一人ひとりの人生の羅針盤を育てていきます。